

令和7年度 第1回 西新宿スマートシティ協議会 議事録 **【公開用】**

- 日時： ■ 2025年6月20日（金）15:00～16:00
- 開催方法： ■ オフライン・Web 併用
- 場所： ■ 東京都庁 第一本庁舎 33階 特別会議室 N2
- 出席者： 【協議会構成員】
- (敬称略) ■ 一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会
- 小田急電鉄株式会社
- KDDI 株式会社
- 住友不動産株式会社
- 損害保険ジャパン株式会社
- 大成建設株式会社
- 東京ガス株式会社
- 東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社
- 独立行政法人都市再生機構
- NTT コミュニケーションズ株式会社
- 株式会社 JTOWER
- 東京電力パワーグリッド株式会社
- ソフトバンク株式会社
- 楽天モバイル株式会社
- 東日本電信電話株式会社
- 株式会社角川アスキー総合研究所
- 株式会社ジョルテ
- 新宿区
- 東京都
- 議 題： 1. 開会の挨拶
2. 協議会参加者の紹介
3. 今年度の取組スケジュール
4. 令和6年度・第3回協議会の意見に対する対応方針
5. 各部会の活動成果報告
- 5-1.スマートサービス実装部会
- 5-2.広報・コミュニティ部会
- 5-3.データ利活用部会
6. 質疑応答および意見交換
7. 閉会の挨拶
- 資 料： 1. 第1回協議会資料

1. 開会の挨拶（事務局）（P.1-2）

- 事務局よりあいさつ

2. 協議会参加者紹介（事務局）（P.3-4）

- 協議会参加者の紹介
- 資料のとおり説明

3. 今年度の取組スケジュール（事務局）（P.5-7）

- 資料のとおり説明

4. 令和6年・第3回協議会の意見に対する対応方針（P.8-9）

- 資料のとおり説明

5. 各部会の進捗報告（P.10-25）

1.1 スマートサービス実装部会（P.11-16）

- 資料のとおり説明

1.2 広報・コミュニティ部会（P.17-20）

- 資料のとおり説明

1.3 データ利活用部会（P.21-25）

- 資料のとおり説明

6. 質疑応答及び意見交換

- 質疑応答及び意見交換（P.26）

—以下意見交換内容—

（発言者 A）

- データ利活用部会のオープンスペースの利活用の取組は意味があると思う。様々なイベントができるという西新宿は、条件面として東京都内で最も公開空地が広く、民間企業も含めて新しいまちづくりに取り組んでいるエリアである。このため、歩道や道路も含めこのエリアの空間をどのように使えるのかという条件をまとめて、外部に開示していくことで、使ってもらえる可能性が広がるという意見には同感する。
- 有識者と勉強会をしたところ、台湾の夜市が活発なのは、良い意味で制度設計に穴があることだそうだ。日本では警察、自治体、国による規制がしっかりしており、何ができて何ができないのかが分かりづらい。協議会で、このエリアでできることを示し、チャレンジャーを呼び込むような空間にできると良い。
- また、まちのビジョンを示すべきと言ってきたが、本来は、この空間に夢があり楽しいことを示し、

使い勝手の良い空間に人が集まるのが理想的である。ある意味西新宿はフロンティアだと考えており、エリアのフリースペースの使い勝手を示していく活動は意味がある。

(発言者 B)

- 今年は再整備ガイドラインができ、西新宿の未来が掲げられ、オープンスペースにラボのような空間を作っていくということが言われ始めた。今年度、オープンスペースの利活用では、イベントスペースの集約・可視化 10 か所を目標としているが、まずどこに協力を求めていくのか。また、防災コンテンツについては具体的にどんな情報を集めるか。

(発言者 C)

- 目標は 10 か所としているが、できる限り網羅的に洗い出したい。一方で、すべてを洗い出すのは難しいため、例えばマイクを使わない人向けのような、ある程度ジャンルを決めながら、そのジャンルの人にとって一番便利なサービスにできると良いと思っている。
- 西新宿の魅力はそもそも人が多いこと。帰り道を少し変えるだけで人が集まるエリアなので、イベントを伝える手段をセットで組み込むことができれば、成功すると考える。
- 防災についてはまずは、避難所の情報を考えている。民間の一時滞在施設のような、民間が開設しないと避難所にならない場所について、どこが開いているのかといった情報共有の仕組みを作りたい。
- また、開設した際にたくさんの人が集まってしまうことが考えられるため、周辺の人だけに伝えられる仕組みがあると、制御しながら避難を進められると考えている。今年度は仕組みづくりや関係者との協議を進めたい。

(発言者 D)

- スマートエネルギーについてだが、各建物のエネルギーに関する情報にはテナントの情報が入っており、データを提供していただくことが難しいという実情がある。そんな中でも情報を絞りながら少しずつデータをもらい、分析を進めている。今後の取組を進めるためには、各ビルの秘密情報をどのように匿名化し、エリア全体で使えるようにするのが課題になる。例えば第三者機関にデータを吸い上げてもらい、フィルタリングすることでエネルギー会社に情報を共有いただくことがあり得る。
- 協議会からはビル管理者をご紹介いただいております、少しずつ話を聞いている。例えば都庁では、非常に踏み込んだ省エネを実施しているが、テナントビルではそこまでの対策は実施は難しい。そのような中でも、テナントでの過剰な空調を改善することで、エネルギー使用量を抑えられる。過剰な空調使用の改善を、テナントに迷惑をかけない範囲で実現できるよう、ビル管理者に依頼する方法を考えていきたい。

(発言者 E)

- ビルの情報を集めていくことは大事。またデータセンターの建設にあたり、地域でガスを使って発電するという話が出てきている。今後、エリア単位でのエネルギーの使い方が重要になる。データを集める事業とも議論しながら進めていきたい。

（発言者 F）

- 西口から公園の活動は見えづらいところがあるため、イベント情報の発信は有効。私も小さい息子がいるので、何をやっているのか分からず、困ることが多々ある。また情報交換させていたきたい。
- また、キャンドルナイトに関しては、開催日数が少なく、立地も難しいため、告知に課題感を感じている。是非イベント情報発信と連携させていただきたい。

（発言者 G）

- 2020 年から自動運転タクシーの運行を実施しているが、分かりやすいコンテンツとして環境改善委員会の目玉になってきており、取組へのファンが増えてきていると思う。また自動運転に限らず、協議会の西新宿での取組のファンが増えている。自動運転タクシーの今年度の実証は未定だが、取組に協力していきたい。

（発言者 H） I

- 今年度もスマートシティフェスタと一緒に西新宿再整備方針の社会実験をやる。社会実験なのでリアルを見せて、将来像に近づけていく。例えば都民広場に芝生を敷いてみたら大変人気があり、常設化してもらった。
- 足元では 2030 年に駅前の西口広場が完成し、4 号街路の整備が完成する。その計画段階からデジタルが入ることによって、合意形成に役立つ。また様々な人に関わっていただけると、西新宿のファンが増えていく。
- 4 号街路を面的・空間的に広げているが、プロジェクションマッピングのような別分野ともつなげることで、参加の幅が広がる。
- 再整備検討推進委員会と連携しているため、デジタルを空間に連携させていくことに関しては、魅力的なチャレンジができる。協議会で意見をいただきながら、良いものを作っていきたい。

（発言者 I）

- 西新宿エリアでスマートポールを 20 機展開し、サイネージを設置するほか、人流データ、気象データ等を収集している。人流データに基づいてリアルタイムに表示するコンテンツが変わるサイネージ広告の仕組みになっているため、それを活用できる取組を実施したい。
- 人流データを使い、例えば災害時の滞留者のデータ共有、スポットにおける人通りのデータを共有することで、情報に付加価値を出せるのではないかな。

(発言者 J)

- 4 月から自社ビルのみならず面的に賑わいを創出できるよう取り組んでいる。落語や合唱会等、皆様の意見をいただきながら具現化していきたい。

7. 閉会の挨拶（事務局）

■ 閉会の挨拶（P.29）

（一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会）

- 今日大変活発な意見をありがとうございました。6年目を迎え、色々なものが見えてきたので、形にしていきたい。環境改善委員会は2010年に発足し、15年になる。内部では、次の5年が重要だという話になっている。今までも様々な提案や活動をしてきたが、今後は実務を担っていく組織になっていく必要がある。本日出たテーマを受け止められるような組織にしたい。また、結果として新宿のファンを生んでいきたい。引き続きご協力をお願いする。

以 上